

施工環境

ダイノック™ フィルムは原則として内装用途にお使いください。

施工温度範囲:12℃~38℃

- 低温時には、ジェットヒーターなどを使用して、下地基材やフィルムの温度を上げてください。温度が低いと接着不良が生じたり、施工後にフィルムがふくれる場合があります。
- 角Rにフィルムを折り曲げて貼った場合、製品によって角R部分が白くなる場合があります。貼る際にドライヤーで暖めながら貼るか貼った後に暖めてください。低温時にはフィルムが裂けやすくなりますのでカットする際の取扱いにはご注意ください。
- 高温時にはフィルムがより柔軟となり、施工しにくくなる場合があります。

照明

- 必要に応じて投光機などを使用して、明るい場所で施工してください。照明が暗い場合、下地基材とフィルムとの間の異物混入や気泡を見逃す恐れがあります。

環境

- ほこり、ちりなどが少ない場所で行ってください。施工する面のみでなく、床の清掃を行ってから施工してください。
- 空気が乾燥して静電気が発生しやすい場合は、床に霧吹きなどで水をかけてください。

施工後の環境

- 軒下や軒天は屋外ですので、●●印(お日様マーク)のついた品番をご使用ください。屋内であっても日光の影響を受ける場合、●●印のついた品番を選定してください。
- 常時50℃以上となる場所や水中・湿度が高い場所への施工は避けてください。
- 浴室への施工は当社3M™ ダイノック™ フィルム ネオシリーズをご使用ください。
- その他、不明な点は当社営業担当にお問合せください。

屋外での貼り付けについて

- ダイノック™ フィルムは原則として内装用途にお使いください。屋外で使用する場合、色柄見本の●●印の製品からお選びください。
- 印の品番は垂直面に使用した場合、色の褪色、変色について3~5年の耐候性を有します。傾斜面や水平面に使用した場合の耐候年数は垂直面の場合よりも短くなります。
- 印の製品は、屋外に面した塩ビ鋼板下地に使用すると変色する場合がありますので使用しないでください。
●●印の製品は変色の心配はありませんので、安心してお使いください。
- ダイノック™ フィルム表面から水分が浸透することはありませんが、端部または貼り付け基材側から水分が入り込むと接着不良を起こす恐れがあります。金属等の含水しない下地を選択するか、端部へのシール等防水処理を充分施してから施工を行ってください。水平面など継続して表面に水が溜まる部位や形状では、短い期間で劣化が進む場合があります。
- VM、PA、MEシリーズを施工する場合、フィルムエッジにシーリング材を塗布して保護してください。端部に湿気が継続して触れた場合や、清掃の際に酸性やアルカリ性の洗剤を用いてフィルムの端部に触れた場合、フィルムが変色する場合があります。使用するシーリング材はポリイソブチレン系を推奨します。変成シリコン系は不具合を生じることがあるため推奨しません。
- 木やケイ酸カルシウム板、スレート等窯業系の下地では、施工後ふくれや剥れ、変色が発生する場合がありますので使用しないでください。

●●印対象製品

屋外の塩ビ鋼板に貼ってはいけないもの			
CA-420	LE-741	ME-388	PA-038 PA-183
CA-422	LE-742	ME-391	PA-039 PA-185
CA-423	LE-1108	ME-396	PA-045 PA-187
FW-613	LE-1109	ME-431	PA-046 PA-320 PA-389
FW-614	LE-1110	ME-486	PA-175 PA-390
FW-653	ME-147	ME-904	PA-177 PA-683
FW-796	ME-148	ME-1434	PA-178 PC-760
GE-923	ME-377	MW-776	PA-179 RT-1111
GE-924	ME-379	MW-777	PA-180 WG-304
LE-517	ME-380	PA-036	PA-181 WG-430

施工場所

塩ビ鋼板製ドアへの貼り付けについて

- 屋外に面した塩ビ鋼板製ドアへの施工は、専用が開発された玄関ドアフォームシートを使用してください。別途資料をご用意しておりますので、ご請求ください。
- エンボスの深い塩ビ鋼板に重ねて貼る場合、接着面積が少なくなるので下地処理に注意してください。

ゴムと接触する場合について

- カウンター、天板、トイレブースなどの用途にダイノック™ フィルムを使用した場合、機器の足や戸当りのゴムなどが長時間接触すると、ゴムの材質によってはダイノック™ フィルムが変色する恐れがあります。

重ね貼りについて

- 重ね貼りした場合、不燃認定材料とはなりません。
- 必ずダイノック™ フィルム表面に3M™ プライマー DP-900Nを塗り、十分に乾燥してから貼ってください。
- エンボスによっては重ね貼りのしにくいものがあります(FE, CA, VM-425, 482, 483, 484, 485, RSなど)ので、お問い合わせください。

下地の色について

- 製品の色が下地の色の影響を受ける場合がありますので、ご使用の際は十分ご注意ください。

テープなどを貼る場合

- 粘着テープ、養生テープなどをフィルム表面に長時間貼ったままにしないでください。テープの粘着剤がダイノック™ フィルムの塩ビに含まれる可塑剤の移行により軟化し、べた付いて、きれいに剥がせなくなる場合があります。

製品仕様について

- カタログ掲載のチップサイズでは全体の仕上がりイメージと異なる場合があります。尺角(A4サイズ)以上のサンプルでご確認ください。

柄やエンボスの方向性について

- ダイノック™ フィルムは、フィルムの裁断位置により突き合わせ部の左右の色の濃さが極端に異なる場合がありますので、裁断位置や貼る方向に注意してください。
- なお、エンボスには微妙な方向性があります。逆方向に貼ると光線の加減で色違いに見える場合がありますのでご注意ください。
- 裏面剥離紙ロゴと柄の天地方向は必ずしも一致しません。施工の際はご注意ください。

ロットによる色のバラつきについて

- ダイノック™ フィルムは、製造工程で厳重な品質管理を行っていますが、ロットにより多少の差異が生じることがありますので異なったロットを同じ面に使用しないでください。
- ダイノック™ フィルムは、ロールの途中にスプライン(つなぎ目)が入る場合があります。

施工時の注意事項

- ロールからフィルムをカットしたり、巻きなおしたりする際、フィルム表面に傷がつかないように、作業台に低摩耗性のテープを貼ったり床を養生するなどしてください。
- ロールからフィルムを巻きだして、平面状にすると、剥離紙とフィルムが剥がれることがありますのでご注意ください。
- 裁断後のフィルムの一時保管は、ロール状にし、端部をテープで止めて立ててください。裁断したフィルムを引きずったり、表面を直接床につけないでください。表面に傷が付いたり、破損する恐れがあります。
- 突き合わせ貼りした場合、施工後に隙間が生じる場合があります。特に濃色フィルムの場合は隙間が目立つことがありますので、フィルム施工に先立って突き合わせとなる部分の下地にフィルムと同系色の色を塗っておくことをおすすめします。突き合わせ部の下地基材にはプライマーを2度または3度塗ってください。
- また、フィルムを重ね裁ちする際、下地基材を切らないようにご注意ください。
- 施工後のフィルムに力が常時加えられる場合、フィルムにシワが発生する場合があります。特に

ドアノブ周りにフィルムを貼り付ける場合はご注意ください。

フィルムに力が加わらないようにするか、施工後のフィルムをドライヤーなどで暖めて、接着力を上げるようにしてください。

- 剥離紙や端材などを床に放置しないでください。踏んだ場合、転倒する恐れがあります。

施工後の注意事項

- 接着力は施工してから徐々に上昇し、3~7日で最大強度に到達します。
- 端材などを廃棄する場合、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』に従い、許可を受けた産業廃棄物業者に処分を委託してください。

保管・輸送の注意事項

- 製品の保管・輸送の際にはカートン(フィルムロール梱包箱)のラベル側を揃えて積み重ねてください。このとき、6段以上積み重ねたり、パレットの2段積みをしなしてください。
- 輸送の際には、カートンを落とさないでください。端部が割れることがあります。
- 製品の保管は、直射日光や高湿度下を避け、周囲温度38℃以下の清潔な場所に保管し、1年以内に使用してください。
- 残材は購入時と同様な梱包形態にし、上記条件にて保管してください。
- ダイノック™ フィルムを使用後、残ったフィルムを保管する際には次の点にご確認ください。必ずフィルムの緩みがないように手で巻きを締めたいのちテープ止めて、フィルムがほぐれてこないようにしてください。フィルムを緩めて保管しておきますと、剥離紙とフィルムに剥離が発生する場合があります。

その他

- ダイノック™ フィルムは、製品改良等のため予告なく仕様を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

清掃・剥離方法について

ダイノック™ フィルムの清掃方法について

- ①付着した汚れはすみやかに除去してください。洗剤は市販の中性洗剤もしくは当社製のクリーナー20、クリーナー30をご使用ください。(強アルカリ性洗剤、強酸性洗剤またはシンナー等、有機溶剤のご使用は避けてください。)
- ②清掃は柔らかい布、スポンジタワシ等をご使用ください。研磨剤の入ったスポンジは絶対に使用しないでください。
- ③清掃後、ダイノック™ フィルム表面に残った洗剤は水できれいに除去してください。

ダイノック™ フィルムの剥離方法について

ダイノック™ フィルムは貼り付け後、時間が経過するに従って剥がしにくくなります。剥離する必要がある場合は下記の手順で行ってください。剥がさず上から重ねてダイノック™ フィルムを貼ると不燃材料になりませんので、不燃が必要な場所に施工する場合にはご注意ください。

- ①ダイノック™ フィルムに幅20cm程度の切れ目を下地を傷めないように注意しながら入れてください。
- ②家庭用ヘアードライヤーでダイノック™ フィルムをあたたため、軟化させてください。
- ③切れ目を入れたダイノック™ フィルムを短冊状に剥がして行ってください。
- ④剥がした後、下地に粘着剤が残る場合があります。残った粘着剤はシンナーもしくは当社製のアドヒーシブプライマーR231、クリーナー20、クリーナー30を使用して取り除いてください。取り除いた後も、下地によっては貼り跡が残る場合があります。
- ⑤石こうボード、ケイ酸カルシウム板、ベニヤ板等の下地に貼ったダイノック™ フィルムを、下地を傷つせずに剥離することはできません。